

かけはし — 小だより

5 23・6・7

ノーサイド ～ 運動会を終えて～

校長 大村 亨 夫

大勢の方々においでいただいた運動会が無事終わりました。はち切れんばかりの声グラウンドに響いた幸せな一日でした。保護者・地域のみなさまに改めて御礼申し上げます。

今年は白組が総合優勝と応援賞を獲得。いわゆるW優勝に輝きました。赤組は残念で悔しかったに違いありません。しかし、負けから学ぶことも人生には必要です。運動会で流した涙は、これからの生活に生きてくるだろうと思います。

さて、私は、閉会式でラグビーの終了を告げる笛(ノーサイド)について話をしました。けんかのようにぶつかり合った選手達が、終了の笛がなると握手し抱き合い、互いの健闘をたたえ合う。すでに敵でも味方でもない。それが、ノーサイドでありスポーツをする者にとって大事な精神であることを伝えたいと思いました。赤組も白組も、これからは同じ第一小学校の子として新たなスタートラインに着こうと呼びかけたのです。

時は明治12年(1878年)。明治政府より英国ケンブリッジ大学に留学を命ぜられた一人の青年がおりました。崇辻蔵之介。25歳。

彼は、秋のある日、校舎はずれの野原で奇妙な光景を目にします。学生達が変わった形をした手鞠(てまり)のようなものを奪い合っているのです。その剣幕は、まるでけんか。呆然と眺めていると「君もやってみるか？」先生らしき人物が声をかけてきました。「ボールをもったら、とにかく全力で走って相手側のゴールラインに置けばいいんだ。後は何も考えなくていい。」

「よおおし！一丁やったるかい。」日本男児の血が騒いだ蔵之介は、試合に入っていました。試合中盤、初めて蔵之介にボールが渡ってくると・・・ここだ！彼は、先生に言われたとおり、何も考えずひたすら走ったのです。

蔵之介を追ってくる者は誰もいませんでした。速かったのでしょうか。いいえ。彼は、試合コートのはるか外側を走っていたのです。規定のライン外を走り抜けゴールまでボールを運んだ蔵之介は、足の裏を血だらけにして誇らしげに微笑んでいました。そんな彼を、ケンブリッジの学生達はルール知らずの日本人と馬鹿にして、大笑いしました。しかし、先生だけは笑いませんでした。そして、一言。「ザッツ ザ スピリット」 その精神だ！その心意気が大切なことなのだよと。

日本人で初めてラグビーをした男 崇辻蔵之介。それから20年後慶応大学に日本初のラグビーチームが誕生します。

私は、現代においても蔵之介のような精神は必要だと感じています。一途な突進や挑戦は、新しい国づくりのためのエネルギーと思えるからです。運動会を見ながら、故郷や日本を支えてくれる若者が、子ども達の中から育ってくれることを願っていました。



大きく伸びたハッピーゆり園のユリ

大運動会

心を一つに燃やせー小だましい！
全力で作り上げよう最高の運動会

～ ゆりの里、夏の陣 ～ をスロ
ーガンに力の限り取り組んできた子ども達の
姿は、たいへん輝いていました。特に応援で
は、精一杯の声を出した時の満足感や友達を
応援する心地よさを味わうことができました。

6月4日(土)の大運動会には、多数の皆様
に参観・ご声援いただきありがとうございました。
特に PTA 役員の皆様には、前日の準備、
当日の役員とご協力をいただき、心から
感謝申し上げます。

また、保護者の皆様には、この日のために
早朝作業を行っていただき、よい環境にして
いただいたことに感謝申し上げます。



最後まで全力で走りきる4年全員走



1・2年団体 「まり入れ」



3・4年団体 「棒取り合戦」



5・6年団体「ゆりの里 夏の陣 2011」



たのしく踊った「めざみ音頭」



力強い赤軍応援



工夫された白軍応援

新記録更新おめでとう

6年女子50mハードル 高橋瑞穂 9秒2

朝早くから声援・応援いただき、誠にあ
りがとうございました。心より感謝申し上
げます。御陰様で、心に残る素晴らしい運
動会を行うことができました。